行財政改革の推進状況
住民の皆さんの理解と協力に感謝

本年度から実施した改革関連事務事業のうち、特に料金の引き上げ改正等を行った主な事務事業の8月末現在における収入実績の状況は、水道使用料では、2，275万8千円（前年比515万9千円の増）、牧場使用料では、146万3千円（前年比26万8千円の増）、国民健康保険税（現年分）では、5，781万8千円（前年比1，272万5千円の増）という状況です。

いずれも、町の貴重な収入財源となっており、現下の厳しい経済情勢の下、町民の皆さんのご理解とご協力に深く感謝を申し上げます。

住民福祉課関係

地域密着型サービス事業
北後志広域で利便性を確保

本年4月1日施行の介護保険法の改正により、地域密着型サービス事業が創設されましたが、認知症対応型共同生活介護施設『認知症高齢者グループホーム』の利用については、当該施設が設置されている市町村の被保険者のみが利用可能であるとされているため、小規模町村に住所を有する介護認定者にとりましては、サービスの選択範囲が狭められるなどの影響が出始めています。

このため北後志管内5町村においては、北後志介護保険事業推進協議会を開催して協議の結果、北後志管内が同一生活圏域であるとの位置付けを申し合わせ、管内の町村に設置されている当該施設の相互指定を行い、各町村の被保険者の利用の利便性を確保することとなりました。

当町においても、9月13日に積丹町指定地域密着型サービス運営委員会を開催し、既に申請のあった北後志管内の2箇所の施設を指定することについての答申を得て、指定を承認したところであり、残る6箇所についても申請書が提出されしだい、所要の指定手続きを取り進める予定です。

このことにより、待ち望んでいた待機者の方々にとりましては、心配が回避される朗報となりました。

敬老会
129人出席、盛会裏に終了

9月22日開催された本年度の敬老会は、75歳以上604人の皆様にご案内を申し上げ、129人の出席者と多数の来賓のご臨席をいただき、盛会に開催されたところです。

開催に当たっては、自治会等連合会をはじめ、町内各地域の婦人会並びに老人クラブ連合会など実行委員会の皆様には、充実した運営に多大のご協力をいただきました。

国保診療所関係
一層の合理化で赤字縮小に努力

8月末現在の外来患者数の状況は、延べ4，457人（1日平均42人）で、昨年同期と比較し196人の減（前年度1日平均45人）という状況です。

診療所運営収支の状況は、8月末までの収入が約2，730万円、支出は約3，880万円で、差引き約1，150万円の赤字となっています。

5月からの院内薬局の廃止や職員の総人件費等運営経費の抑制など、引き続き運営の合理化に努めているところですが、今後も患者の利用対策など、高橋所長をはじめ職員が一丸となって赤字縮小に向けた改革に取り組んでいきたいと考えています。

商工観光課関係
観光客入込み 前年比減
集客のための取り組みに努める

旭山動物園や知床半島の世界遺産指定の影響などから、8月末現在、対前年比若干の減少と推計しています。

そうした状況の下、各施設の売り上げ状況は、水中展望船、味処「しゃこたん」については、2～5％の増、レストハウス「ペニンシュラ」については、約3％の減という状況です。

今後、秋の観光シーズンを迎え、関係者共々集客のための取り組みに努めていきたいと考えています。

アジア各国に積丹観光ＰＲ　インバウンド商談会

9月8日札幌市で開催された「アジア圏旅行会社とのインバウンド商談会」に町、観光協会及び株式会社積丹観光振興公社担当者が出席し、韓国、中国、香港等25社の海外旅行代理店やマスコミの方々に、積丹観光のＰＲと商談を行ってきました。

来年度以降におけるアジア系旅行者の訪町を大いに期待するところです。

イベント関係　盛会裏に終了

「ドンと来い積丹味覚祭り」と「お神威ソーラン祭り」を一本化した「第1回積丹ソーラン味覚祭り」が6月25日開催され、終日好天に恵まれた中、早朝から長蛇の列ができるなど、例年に無いほどの入り込みを数え、盛況のうちに無事終了しました。

9月2日と3日にかけ、札幌市大通り公園を会場に開催された全道ふるさと市場「リンケージアップフェスティバル2006」に当町からも参加し、観光ＰＲと特産品の販売を行ってきました。

水中展望船指定管理者へ　公社へ健全経営を強く要請

第3回臨時会において議決をいただいた指定管理者制度による水中展望船については、8月29日、株式会社積丹観光振興公社との協定書の締結を行い、9月2日からその管理運営業務に当たっているところです。

協定書の締結に際して、本件が本町の公の施設において初めての指定管理者制度導入の事案であることから、新制度への移行に伴う関係条例等の制定から指定管理者の選定に至る過程において、町議会及び同特別委員会あるいは町指定管理者選定委員会等の各機関からいただいた議論やさまざまな意見あるいはまた町民各位の期待等を十分踏まえて特に、

㈠指定管理者制度の趣旨に沿い、協定内容の遵守と第3セクターたる法人の社会的信用と責任の重要性を十分再認識され、健全な経営に万全を期していただきたいこと。

㈡協定書の総則にも定められている、町指定管理者選定委員会答申の5項目の付帯意見の実現に最善の努力をしていただきたいこと。

の2点について、同社葛西代表取締役に対して、格別の配慮を求める申し入れを行ったところです。

これを機に、更に同社の役職員が一丸となり、水中展望船の安全かつ適正、円滑な管理運営を通じて、今後の本町の観光振興に一層、貢献されることを心から期待するものです。

町の公の施設である行政財産から普通財産に町有財産の分類替えをした物産品販売施設『岬の市場』については、9月1日、積丹町地場産品販売促進協議会と賃貸借契約を締結し、同月2日からその使用目的に沿って、同協議会がその運営を開始しているところです。

新たな公設民営方式による公有財産の有効活用によって、従来とは異なる効果的な経済性を発揮され、地場産業の振興と所得の向上に役立てられるよう関係者の方々の一層の連携強化と運営努力をお願いします。

「ごみ持ち帰り運動」　広域的運動へ拡大展開を

美しい景観を末永く後世に保存継承するため、地元

住民はもとより観光客の環境美化に対する国民的意識の高揚を求め、観光客によるごみの減量化及び不法投棄の未然防止を目指すため、本年夏から「ごみ持ち帰り運動」を展開しているところです。

7月17日からの運動期間中、観光客への啓発運動やクリーン作戦などに、技能士会、町内会、婦人会、老人クラブ、商工会及び観光協会の会員のほか、町外の民間法人や行政機関など延べ約300人の方々のご協力をいただき、看板の設置や啓発物の配布を行ったほか、4トンダンプ約2台分のごみの収集ができたところです。

町としては、この運動を、今後、近隣市町村との連携により広域的な運動へと拡大展開すべく、国や北海道などの関係機関にも要請していきたいと考えています。

引き続き町民各位のご理解とご協力をお願いします。

『岬の湯しゃこたん』利用状況

8月末現在の利用状況は、入浴者数8万4，711人（前年対比2，770人の減）、入館料等収入総額7，901万円（前年対比319万円の減）という状況です。

農林課関係

農業生産概況
ミニトマト生産計画達成に期待

例年より約2週間の遅れで始まった今年の農作物の作柄状況は、不順な天候の影響を心配されながらも収穫期を迎える時期となってきましたが、当初の計画見込額を下回る厳しい状況が懸念されています。

好天に恵まれた7月、8月でしたが、干ばつと高温により、馬鈴薯とカボチャが小玉傾向で経過しており、今後の収穫増と出荷時までの価格の動向に期待しているところです。

仁木町トマト生産組合と連携して取り組んでいますミニトマトについては、着実に栽培技術の向上が図られ、成育も順調に経過しており、すでに後半型の積丹産が出荷の本番を迎えていますが、10月下旬までの収穫を期待し、消費者ニーズの高まりと価格の高推移等の市場動向から、計画の達成が期待できるとの作況報告を受けています。

依然厳しい酪農関係
生産者は懸命な取り組み

北海道をはじめ全国的な生乳生産調整による減産への取り組みが顕著に進んでいるところですが、梅雨明けの遅れなど気候の変動要因が消費の低迷を加速させ、引き続きの牛乳需要の減少に歯止めがかからない状況が依然として続いており、年度途中の更なる減産強化策の検討が始まるなど、一段と厳しい情勢の中で、本町の生産者においては、更なる乳質の改善向上と経営コストの抑制に懸命に取り組んでいるところです。

漁業者による森と海の環境保全運動
今後も実践活動の育成に努める

昨年度から東しゃこたん漁業協同組合積丹支所青年部が、新たな取り組みとして始めた「森から海に至る環境の保全運動」が、本年度は10月上旬に「豊かな海復活への森林回復植樹事業」として、北海道後志森づくりセンターの全面的な支援の下で、漁業者、児童、地域住民など地域ぐるみで実施される予定です。（10月9日実施。今号17ページ実施状況掲載）

豊かな森から豊かな海の環境づくりとして、広葉樹の植樹やサクラマスの放流など、「森と海の繋がり」を改めて学ぶ、こうした実践活動の育成に、今後も努めたいと考えています。

緑資源機構造林事業
引き続き町有林造成に努める

神岬団地及び婦美団地の下刈り33・3ヘクタールが完了し、8月下旬より神岬団地の除伐27ヘクタールを実施中です。

降雪前の完了を目指した除伐施業面積の追加確保を図るため、緑資源機構との調整協議を急いでいるところですが、引き続き保育事業の拡充など、分収造林

事業による町有林の造成に努めたいと考えています。

水産課関係

漁業生産概況
ナマコ資源の適正管理で安定生産を期待

本年4月から8月までの5か月間の総水揚量は、1，429トン（前年対比10％減）、総水揚金額は7億1，900万円（前年対比13％減）と厳しい状況で推移しています。

大きな要因としては、主力魚種であるイカ漁の漁場が半島海域の南北に点在したことと、外来船を含めて総体的に不漁が続いていることです。

イカ漁においては、高騰し続ける燃油価格が経営を圧迫し、漁業者には非常に厳しい生産環境となっていますが、今後の秋以降の豊漁に期待しているところです。

一方、ウニ漁は、海藻の繁茂が昨年に引き続き良好であったことから、水揚量は昨年より若干下回りましたが、水揚金額では、平年並みの水準を維持しました。

新たな漁獲資源としてのナマコが高価格で取引され、水揚量で25トン、水揚金額で約7，100万円という例のない実績を見ましたが、適切な資源管理の下で、今後とも安定的な生産が期待されるところです。

美国漁港製氷・貯氷施設整備事業進捗状況
明年2月完成目指し着工

東しゃこたん漁業協同組合が本年度美国漁港内に建設を計画している本施設については、実施設計を経て、9月9日に安全祈願祭が挙行され、明年2月28日竣工を予定工期として、工事に着手しました。

施設の概要については、実施設計において、管理・作業スペースの変更確保の必要性から、3階部分の一部を2階構造としたため、建物規模は、鉄骨造5階建、延べ床面積457・84平方メートルとする計画が決定されました。

建設課関係

「幌武意船澗通り線」法面崩落
道の財政支援措置決定

平成16年4月の融雪により被災した町道幌武意船澗通り線の法面崩落箇所については、昨年の応急措置に引き続いた早期の本格的な復旧対策工事が急がれていたところであり、道財政の極めて厳しい状況下ではありますが、補助小規模治山事業の採択による道の財政支援措置の緊要性を強く要請してきました。

9月5日、北海道後志支庁長から同事業に対する道費補助金の交付決定通知を得ましたので、この度、地質調査の実施を経て「補助小規模治山工事（幌武意漁港地先）」を発注し、近く着工する予定です。

工事の概要は、積ブロック工延長26m、法面工286平方メートル、総事業費約2，580万円で、工期は12月末完成を予定しているところです。

建設工事の発注状況

9月19日現在、土木関係9件、建築関係2件、水道関係5件の合計16件で、総工事契約金額は7，138万9千円です。

道の道路事業
婦美歩道造成工事3か年施工完成へ

道野塚婦美線は、昨年に引き続き婦美地区の交通安全施設（歩道）工事、延長150mを施工中であり、年内完成の予定です。これにより、平成16年からの3か年施工により、国道229号交差点から婦美橋まで延長472mの歩道造成工事が完成することとなります。

治山事業
幌武意国有林治山工事
明年2月末完成予定

長年要望運動を続けてきました、幌武意国有林治山工事が7月13日に着工し、落石防止壁64m、雪崩防止柵19基を施工中であり、明年2月末完成予定です。

同工事及び町が施工する補助小規模治山工事の施工により、